

愛郷無限  
新時代  
Kajiyama Hiroshi

かじやま

梶山ひろし

## ■梶山弘志のプロフィール

●昭和30年 茨城県常陸太田市に梶山静六の長男として生まれる。●昭和49年 茨城県立太田第一高等学校卒業●昭和54年 日本大学法学部法律学科卒業●昭和54年 動力炉核燃料開発事業団（現・日本原子力研究開発機構）入社●昭和63年 自ら会社を設立し、代表として経営に携わる。●平成12年 衆議院議員初当選（現在、当選3回）●家族 母・春江、妻・由可子と3女の6人家族

# これからの県北、これからの日本 梶山ひろしはこう変えていく！

## 茨城県北地域に 自立する経済圏を実現

私のビジョンは、ふるさと茨城県北に「自立する経済圏」をつくることです。ここには、過疎地があり、工業地帯がある。高齢化や少子化問題がある。原子力がある。高速道路や港がある。農林水産業がある。日本の縮図であり、課題のすべてがあります。「自立する経済圏」として水、電気、食料を自給し、働く場もあって、県北一帯で人やモノやお金が回るようにすることが、この問題解決につながります。

具体的にはどうするか。県北の課題は、まず若い人たちが居着かない事です。そこで雇用の場の確保、企業が進出できるための条件整備を行います。そのために、ひたちなか港を整備しました。港の機能を評価して現実に大手企業が進出しました。ビジネスの重要要件は、物流の費用と時間。県北にはさらに道路整備を促進します。今年の3月に久慈川に木島大橋が架かり、これによって、いくつかの会社が工業団地に手を上げ始めた事実がそれを物語っています。

## 働く場と憩う場の調和 地域雇用を守り、さらに産み出す

公共事業はすべてが無駄遣いではありません。建設工事のためだけの公共事業は愚の骨頂。しかし、私の考える道路は違います。万一のときに、パトカーや消防車や救急車が来られるようにしておけば生活の安心がある。将来、人が居着くための道具になる。ここは首都圏に住む人とプライオリティ（優先順位）が違います。

企業が来れば、家族も増え、地域人口も増えることで様々な産業に波及効果が及びます。レジャー市場も含めたソフト面での充実が求められてきます。この役割を県北一帯で担えば、既存の商売にも新たなビジネスチャンスが拡がります。それを国として政策面、税制面で後押ししていくのが私の務めです。

私の政策は中小零細企業を重視します。日本の会社の99.9%、雇用の71%を中小零細企業が占める中、中小零細企業が元気でなくては景気回復は果たせません。私が行った中小企業の事業承継税制改革（9割の相続税が2割に低減）や中小企業再生支援機構などもこうした企業の雇用を守るためです。商店街や農林水産業などにも、地域雇用の維持と拡大のため、現場の声を踏まえ、さらに支援の充実を図ります。

## 環境に重点を置いた 新しい経済国家を目指す

環境、特に温暖化ガス等が地球規模で問題になる中で、私は、環境に重点を置いた環境重視・新しい経済国家として世界に貢献をしていくことが、今後の日本の生きる道と思っています。

わが国の基幹産業は環境に相当配慮して活動しています。今後は民生部門（国民の生活）全体で、どれくらい環境重視型のスタイルを根付かせるかが課題です。人間は便利な生活をいきなり捨てることは出来ません。生活をかえずに道具を変えることで環境に負荷を与えない。こういう技術革新を後押しすることが政治の分野です。さらに税制や支援策を整備して参ります。

新産業の育成も環境分野が鍵になります。電気自動車におけるリチウムイオン電池や、蓄電池の開発を例にあげるまでもなく、製造や研究でも環境分野にお金が投入されるように、誘導する政策を推進します。

振り返れば、これまでの大量消費時代。有る意味、人間も大量消費されてきたのかもしれませんが。人を切り捨て、心が荒んできたのだと思います。人口構造や価値観が変容する中で、大量消費を超えた「富国徳」を目指し、急速に悪化してきた所得分配と税負担の不均衡の是正などに取り組みながら、外には国民の命や財産を守る安全保障を確立、内には環境や福祉、教育、安全などの分野を中心に社会を再構築していく事が私の今後の活動です。



# 旧来の派閥のしがらみが無い 新集団で政党政治を変える

## 自らの政治の原点を見つめ 勇猛果敢にチャレンジを続ける

私も政界に身を置き、10年余り。サラリーマン経験、そして中小企業経営者として会社経営をする中で、政治や行政が現実を追いついていない。その現実の声や思いをなんとかしなければという思いで政界に身を投じました。

また、官僚の理論、東京中心の意識が基本となって、地方を疲弊させる現状を見て、暮らしの実感や地方の声を国政に反映させようと「ミクロを見ながらマクロを直す」を政治原則に置いて行動してきました。

この私が政治の道を選んだときの思い、そして、その原点を再び、胸に刻みながら、今、政治活動に専心する決意です。

昨今の政治情勢を見て、新しい政治の流れ、改革を進めるため、新グループを党内につくるべく、既に後藤田正純君をはじめとした、志を同じくする国会議員の仲間とその準備を始めているところです。

世界は未曾有の経済不況に見舞われ、失速、収縮する中、各国は必死に立て直しを図っています。その中で日本の政治は混乱し、機能していません。国民の不満は自民党に向かっています。今回の決断はそれにどう応え、どう対処していくのかを考えてきた結果です。

勿論、これは新党をつくるとか、麻生批判とかではありません。

## 新しいマインド（精神）と 実行力と刷新力が基本原則

しかしながら数年にわたる政治の機能不全は、時代の変化に政党政治が追いついていないことを露呈しました。

その根本には中選挙区の時代がすでに終わっているのに、多くの政治家が、未だに中選挙区の行動様式から脱皮できていないことに起因しています。

小選挙区で選挙の制度が変わったということは皆さんも実感されていることでしょう。しかし、政治家にとってもうひとつ大きなことは政党交付金という公（おおやけ）のお金が政治家に入るようになったことです。これまでの政治家は、全て自分で稼いで、あるいは自分で集めて自分の基準で政治活動を行ってきました。

しかし、公金が入るという事は、政治の管理および行動の基準の中に絶えず、厳しいまでの公（おおやけ）を求められ、ディスクロージャー（情報公開）とアカウントビリティ（説明責任）のもとで発想し、行動するという事です。これは小選挙区マインド（精神）といえるもので、中選挙区の政治家との決定的な意識と行動原理の違いです。

ところが現実には、未だに以前の精神と秩序のままできており、「中選挙

区の精神を壊す」という意識がないと自民党は生まれ変わらないと思っています。今後の自民党をどうするか、政治のあり方を真剣に考え、自民党を根本から立て直す議論するグループを作り、私たちに続く第二第三のグループ結成の呼び水になることが狙いです。

## 数を頼まず、妥協を排し 少数精鋭で最強の軍団をつくる

私たちのグループは最終的には自民党の総裁選も意識して、20～30人ということも念頭にありますが、数に頼むことはいたしません。

これまでの政治は「政治は数、数は力」の原理で動いてきましたが、私は逆にこれからの政治では、数を追求すると混乱と妥協を招くと感じています。

機能不全に陥っている今の自民党、いや、政治全体をただすため、私はこれからも勇猛果敢に行動してまいります。

私の信念とこれからの行動に是非とも大きなお力をお貸し下さりますようお願いいたします。



ホームページ <http://www.kajiyama-office.com/>

かじやま  
梶山ひろし

本部事務所  
〒313-0013 茨城県常陸太田市山下町1189  
TEL.0294-72-2772 (代)  
FAX.0294-72-3383

国会事務所  
〒100-8982 東京都千代田区永田町2-1-2  
衆議院第2議員会館529号室  
TEL.03-3508-7529  
FAX.03-3508-7714

自由民主党茨城県第4選挙区支部

〒313-0013 茨城県常陸太田市山下町1189 TEL.&FAX.0294-72-8100